

明治三十三年一月編纂

第九次衛生年報

自明治三十一年一月
至明治三十三年十二月

福島縣第三部衛生課

国立保健医療科学院蔵書



10012099

P-D

9

7

卷二

明治二十三年一月編纂

第九次衛生年報

自明治二十一年十一月

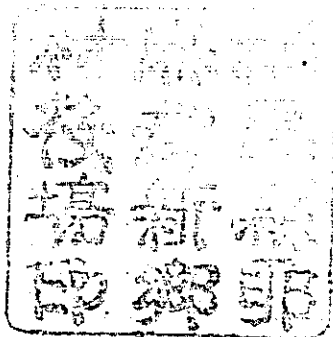
至明治二十二年十一月

川上理一氏

寄贈

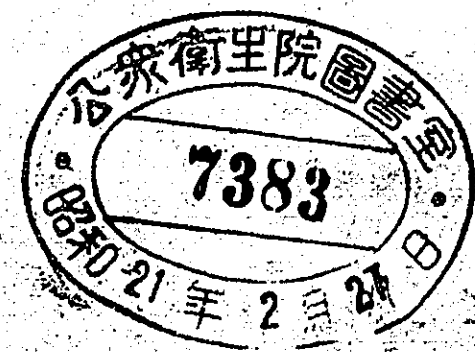
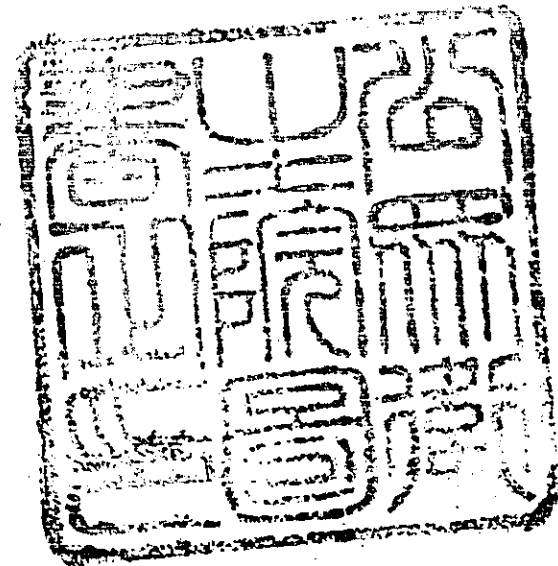
公衆衛生課

福島縣第二部衛生課



P-D 7383
9
7

P-D
9
7



7383

例言

一本報ハ例ニ據リ明治廿一年中本縣衛生諸務實施ノ概畧并ニ各郡申報ニ係
ル衛生諸表ヲ記載シ第八次年報ニ繼テ公報スルモノトス

一表中百分比例平均ノ如キハ總テ厘位ニ止メ厘以下ハ四捨五入ノ法ヲ用フ
一表中「ハ」千位及万位ヲ示シ「●」ハ一位ヲ示シ又全ク事實ナキモノハ其欄ニ
「…」ヲ記入ス

一衛生及病院費ハ會計年度ニ依ル

第九次衛生年報目次

第一章 衛生事務實施條項.....一十五丁

第二章 衛生諸表.....二十三丁

第一項 面積町村數及戶口數.....全十三丁

第二項 死亡.....二十四丁

一 死亡者各郡別.....十丁

二 死亡者年齡別.....六十八丁

三 死亡者月別.....六十六丁

第三項 傳染病.....四十三丁

一 傳染病患者職業別.....六十四丁

二 虎列拉病患者年齡別.....

三 同 月別.....

四 發疹室扶私病患者年齡別.....

五 同 月別.....

六 腸室扶私病患者年齡別.....

七 同 月別.....

八 赤痢病患者年齡別.....

（此處為模糊之印刷文字，內容難以辨識）

九	赤痢病患者月別	六十四丁
十	實布埤利亞病患者年齡別	六十五丁
十一	同	六十六丁
十二	痘瘡病患者年齡別	六十八丁
十三	同	七十丁
附	患者及死亡比較昇降線圖	七十一丁
	同連年比較昇降線圖	七十二丁
第四項	地方病患者	七十四丁
第五項	中毒症	七十五丁
第六項	種痘人員	七十五丁
第七項	醫師及產婆鍼灸	七十五丁
第八項	入齒々拔及口中療治接骨	七十五丁
第九項	藥舖及製藥人	七十五丁
第十項	賣藥及雜藥請賣行商	七十五丁
第十一項	冰雪製造人員	七十五丁
第十二項	病院	七十五丁
一	公私立病院表ノ一	七十五丁

二	同	二
三	施治患者病院別	二
四	各病院施治患者月別	二
第十三項	娼妓檢模	八十一丁
第十四項	衛生及病院費	八十一丁
一	衛生及病院費豫算	八十一丁
二	衛生費及病院費精算	八十一丁
三	衛生及病院費收入比較	八十一丁

衛生課第九次年報

◎ 第一章 衛生事務實施條項

訓令甲第四十一號

郡役所 戶長役場

管下磐前郡小名濱村及宇多郡中村地方ニ於テ天然痘流行ノ兆アリ豫防撲滅方嚴重處置致置候得共目下天然痘傳播流行シ易キ時節ニ付此際一層種痘ノ普及ヲ力メ該病ヲ未發ニ防遏候様精々接種セシムヘシ

福島縣知事 折田 平 内

訓令甲第五十七號

郡役所 戶長役場

明治十九年四月乙第十號達自今廢止ス

福島縣知事 折田 平 内

明治二十一年三月廿二日

訓令甲第七十三號

郡役所

明治二十年三月訓令甲第九十九號福島病院醫管内巡回規則中第二條及第五條但書左ノ通改正ス

明治廿一年四月二日

第二條

伊達郡桑折村隔番

安達郡二本松町隔番

第五條 但書中(各施治醫)ノ五字削除

縣令甲第三十一號

明治十三年縣甲第四百四號達產婆養成假規則中第八條ヲ削除ス

明治廿一年四月五日

福島縣知事 折田平内

縣令甲第三十五號

明治二十年縣令甲第七十六號獸類屠殺場并獸肉販賣取締規則中左ノ通改正追加ス

明治廿一年四月十四日

福島縣知事 折田平内

第一條 第十三條第十五條第十六條第十八條中牛ノ下(馬)ノ一字ヲ加フ

第十九條 馬肉ト他ノ獸肉ト同一ノ場所ニ於テ販賣シ又ハ馬肉ト他ノ獸肉

ト一同ニ行商スルヲ許サス

第二十條 家畜流行病ノ節ハ其獸肉ニ限り一時販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

元第十九條以下順次繰下シ

第二十四條ノ第十四條ノ下ニ(第十九條)ノ四字ヲ加フ

第廿五條中ニ第二十條トアルハ(第二十三條)ト改ム

第二十六條中ニ第二十一條トアルハ(第二十三條)ト改ム

縣令甲第三十六號

土地家屋ヲ清潔ナラシメ以テ傳染病ノ荼毒ヲ未萌ニ防遏スルハ豫防法中最モ緊要ナル旨豫テ令達及置候次第モ有之候處時季日ニ暖喧ニ向ヘ惡疫發生ノ憂アリ然ルニ清潔法實施ノ機ヲ失シ炎暑又ハ惡疫流行ノ日ニ至リ俄ニ下水溝渠ヲ浚深シ塵溜ヲ掘崩スル等ノ所爲アリテハ有機毒物ヲ發散スルハ目下豫防上ノ急務ナリトス依テ來ル五月尽日ヲ限り一般家屋ノ掃除下水溝渠ヲ浚深尿尿塵溜ノ排除等掛官吏ノ指揮ニ從ヒ清潔法實施スヘシ

明治廿一年四月十四日

福島縣知事 折田平内

縣令甲第八十號

郡役所 戸長役場

本年甲第卅六號ヲ以テ土地家屋等清潔法實施ノ義縣令候ニ付テハ多量ノ泥土汚穢物等各自ニ之ヲ運搬シ燒棄埋却スルガ如キ其繁雜甚敷クモナラズ

實施順序モ整ハサル義ニ付左ノ手續ニヨリ便宜相當ノ施行方法ヲ設ケ一齊ニ掃除普及候様取計フヘシ

明治廿一年四月十四日

清潔法實施手續

福島縣知事 折田平内

第一項 清潔法實施スヘキ町村ハ百戸以上家屋連檐ノ地及國縣兩沿道ノ部落トス

但シ其他ノ部落ハ戸長ニ於テ警察署長又ハ分署長ト協議シ便宜ノ方法ヲ設ケ實施スヘシ

第二項 郡長ハ警察署長ト協議シ豫メ清潔法實施スヘキ町村部落ノ區域ヲ定メ戸長ニ達スルト全時ニ知事ニ報告スヘシ

第三項 戸長ハ警察署長又ハ分署長ト協議シ施行期日ヲ定メ郡長ニ届出ベシ

第四項 掃除ハ各戸周圍ノ下水溝渠周圍塵溜及公共ニ係ル下水溝渠便所塵溜トス

第五項 下水溝渠ニシテ流レ口ナク又ハ猪溜ノ愛アル場所ハ疏通ノ路ヲ開修セシムヘシ

第六項 各自及公共ノ周圍ヲ問ハス破損シ汚液ノ地中ニ滲入スルノ愛アル

モノハ修理又ハ改造セシムヘシ

第七項 掃除ヲ行ヒ取り集メタル汚穢物ヲ直ニ人家遠隔一定ノ場所ニ運搬シ燒燃若クハ埋却セシメ溝渠浚渫ニ係ル汚泥ハ人家ノ周圍又ハ街衢路傍ニ堆積シムヘカラス

第八項 衛生組長ハ掛リ官吏ノ指揮ニ從ヒ組合内ノ清潔法實施ニ從事セムヘシ

第九項 戸長ハ清潔法實施結了ノ上ハ三日以内ニ其旨郡長ニ届出ヘシ

第十項 郡長ハ郡書記ヲ派遣シ清潔法實施ノ行否ヲ視察セシメ若シ掃除不

充分ナリト認ムル場所アルキハ更ニ施行セシムヘシ

第十一項 郡長ハ清潔法實施終結ノ上ハ其狀況ヲ取調派遣郡書記ノ復命書寫ヲ添ヘ知事ニ具申スヘシ

訓令甲第百八號

客年(十二月)甲第三百三十五號付ヲ以テ訓令及ヒ置候獸類屠殺敷報告書式中

第一項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

福島縣知事 折田平内

明治二十一年五月九日

一馬 何頭 内牝何頭



縣令甲第六十五號

獸畜死屍取締規則左ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス
明治廿一年六月七日

福島縣知事 折田平内

獸畜死屍取締規則

- 第一條 此規則ニ於テ燒場埋地ト稱スルハ牛馬羊豚犬猫ノ死屍ヲ燒棄及埋却スル場所ヲ云ヒ單ニ死屍ト稱スルハ牛馬羊豚犬猫ノ死屍ヲ總稱ス
- 第二條 燒場及埋地ヲ新設シ又ハ取廣メントスルトキハ其地并ニ近傍明細圖面ヲ添ヘ所轄郡役所ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 燒場及埋地ハ一町村各一ヶ所ニ限ルヘシ
但土地ノ狀況ニヨリ止ムヲ得サルモノハ特ニ増設ヲ許可シ又其町村内ニ適當ノ場所ナキトキハ他町村ト聯合設置ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第四條 埋地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道川流ニ沿ハス人家ヲ隔ツルコト凡六十間以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障リナク且ツ成ルヘク荒蕪ノ地ヲ撰ムヘシ
- 第五條 燒場ハ前條ノ外人家ヲ隔ツル二百間以上ノ地ニシテ常ニ風笛ニ嫌ナキ地ヲ撰ミ臭烟ヲ防クノ用意ヲ爲スヘシ
但山林原野ニシテ遠ク人家ヲ隔ツル地ハ格別ナリトス

第六條 燒場及埋地ノ周圍ニハ樹木ヲ植ヘ又ハ土手ヲ築キ他ノ地ト區域ヲ明瞭ニスヘシ

第七條 死屍ハ其飼養主ニ於テ燒棄又ハ埋却シ飼養主ナキモノ及其不分明ナルモノハ地主又現住者ニ於テ燒棄又ハ埋却スヘシ

但道路ニ於テ死屍アルヲ認知シタルトキハ掃除負擔ノ責アルモノニ於テ飼養主ノ有無ニ拘ハラズ直ニ取除キ置キ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 所有地内ニ飼養主アル死屍ヲ發見シタルトキハ其地主又現住者ニ於テ飼養主ニ通知スヘシ若シ飼養主隔絶ノ地ニ在リ急速ニ處分ヲ爲シ得サルトキ及飼養主不分明ナルトキハ牛馬ノ二種ニ限リ最寄埋地ニ假埋ノ上其旨所轄戸長役場ヘ届出ヘシ

第九條 燒場及埋地ニハ管理者ヲ設ケ不潔ナカラセムヘシ

第十條 死屍ヲ燒棄スルハ成ルヘク日沒後ニ之ヲ行フヘシ

第十一條 死屍ヲ埋却スル擴穴ハ牛馬羊豚ニアリテハ深サ六尺以上犬猫ニ

アリテハ深サ三尺以上タルヘシ

第十二條 獸畜ノ死屍ヲ以テ肥料ヲ製スルカ爲メ特ニ燒場ヲ設クルモノモ

總テ此規則ニ據ルヘシ
第十三條 第二條ニヨリ出願許可ヲ得タルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署

ニ届出ヘシ

第十四條 郡役所ニ於テ燒塲埋地ヲ許可セシトキハ其町村名及該字番地等

ヲ詳記シ一月七月限リ兩期ニ縣廳ニ報告スヘシ

第十五條 第二條第七條第八條第十一條第十二條ニ違背シタルモノハ五錢

以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

但第七條但書中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノハ刑法ノ刑ニ處セラ

ルヘシ

縣令甲第六十六號

明治十年(四月)縣甲第三十號達中第六項行商鑑札表面記載方書式左ノ通り改

定ス

明治二十一年六月十五日

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

福島縣知事 折田平内

賣藥行商許可之証

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者

氏名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥行商許可之証

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者氏名

賣子 氏名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之証

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業人 氏名

名

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥請賣營業氏名

賣子 氏名

名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥行商許可之証

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業人 氏名

名

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥請賣營業氏名

賣子 氏名

名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

縣令甲第八十三號

本年(六月)縣令甲第六十五號獸畜死屍取締規則施行期限ノ義來ル十一月一日

ト改ム

明治二十一年九月廿九日

福島縣知事 折田平内

縣令甲第八十五號

本年(六月七日)縣令甲第六十五號獸畜死屍取締規則中左ノ通改正刪除ス

福島縣知事代理

明治二十一年十月八日

福島縣書記官 永峯彌吉

第二條中郡役所云々ハアルヲ警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシト改ム

第十二條、第十三條、第十四條、ヲ削除シ以下繰上ケ第十五條中第十二條ヲ削除ス
縣令甲第八十八號

凍氷營業取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

但明治二十年縣令甲第二百二十一號達ハ本則施行ハ日ヨリ廢止ス

福島縣知事山田信道代理

明治廿一年十月廿七日

福島縣書記官 永峯彌吉

凍氷營業取締規則

第一條 販賣ヲ目的トシテ凍氷ヲ製造シ又ハ貯藏セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シタル調書ヲ添ヘ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
但製氷用水凡ソ四合以上ヲ添付スヘシ

一 製氷場貯藏場ノ位置

二 製氷并貯藏ノ方法及貯藏場構造法

三 製氷場貯藏場近傍明細圖

第二條 製氷場貯藏場ハ實地檢査シ障害ナキ地コアラサレハ之ヲ許可ス

第三條 第一條ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ製造又ハ貯藏シタル凍氷ヲ發賣セント欲スルトキハ概テ其斤數ヲ記載シ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出檢

査ヲ受クヘシ

但檢査用トシテ凍氷五斤以上添付スヘシ

第四條 凍氷試驗ノ上其質善良ナルモノハ第一號書式ノ檢査證ヲ付與シ不良品ハ之ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

第五條 他管ヨリ輸入ノ凍氷ヲ發賣セントスルトキハ該管廳許可ノ證ヲ添ヘ第三條ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 卸賣小賣又ハ行商ヲ爲サントスルモノハ凍氷檢査證ノ寫ヲ添ヘ所轄郡役所ニ願出免許ヲ受クヘシ

第七條 行商者ハ所轄郡役所ヨリ鑑札ヲ請ケ行商中常ニ携帯スヘシ

第八條 卸賣小賣者ハ第二號書式ノ看板ヲ掲クヘシ

第九條 凍氷製造貯藏及販賣免許ノ期限ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日迄トス

第十條 凍氷製造及貯藏出願期限ハ前年期十一月十五日限リ翌年正月十五日限リ
第十一條 第一條第三條第五條第六條ノ許可ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ

所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ
第十二條 製造場并貯藏場ハ常に清潔ニシ若シ不潔ニシテ有害ノ虞アルトキハ修理又ハ場所換テ命スルコトアルヘシ

第十三條 検査済ノ後ト雖係官吏ハ時々凍水ノ検査ヲ爲シ不潔又ハ有害ト認ムルトキハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

第十四條 第一條第三條第五條ニ違背シタルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十五條 第六條第七條第八條第十一條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

凍水検査證	
第何號	何郡何町村何番地
製造地名	製造人何某
一凍水大凡見積何万斤	
右凍水検査ヲ遂ケ飲料ニ供シ無害タルヲ證明ス	
年月日	
福島縣第二部衛生課印	

第二號書式

二尺五寸

何郡何町村氏名製造	
何地凍水	郡町村所
小賣賣	販賣人氏名
全	
何郡何町村氏名製造	
何地凍水	郡町村所
小賣人氏名	
三寸	
第何號	烙印
凍水行商鑑札	郡役所
郡町村番地族籍	行商人氏名
裏	
年月日	郡町村番地製造
凍水	郡町村番地族籍
製造人氏名	

縣令甲第八十九號

本年十一月一日ヨリ積雪販賣ヲ停止ス

明治二十一年十月二十七日

告諭第三號

福島縣知事山田信道代理

福島縣書記官 永峯彌吉

凍氷製造及貯藏方法製氷者心得ノ爲メ左ニ其概要ヲ示ス

福島縣知事山田信道代理

福島縣書記官 永峯彌吉

明治二十一年十月廿七日

氷製造及貯藏方法心得

第一 氷製造法

一 天然氷ヲ製造シテ飲料ニ供セント欲スルニハ製氷場即チ氷池ヲ撰定設置スルヲ第一トス凡製氷場ヲ設クルハ湧泉溪流清川等水質ノ善良ナルモノヲ撰ミ其近傍ニテ汚穢物ノ混入スル憂ナキ清潔ノ地ニ就キ池ヲ堀リ以テ製氷場トナスヘシ決シテ耕地等ヲ流過シ來ル處ノ池沼川流或ハ田面溝渠等誘害物ヲ含有セル恐アル場所ニ於テ製造ヲ爲ス可ラス

一 製氷場ヲ設置スルニ當リ製氷者ニ於テ最モ注意スヘキモノハ成ルヘク日光ヲ避クルノ地ヲ撰ムニアリ故ニ西南或ハ東南ニ山峯又ハ岡陵ヲ控ヘ或



ハ森林鬱茂ノ蔭ニシテ終日太陽ノ光線ヲ蔽遮蔭翳ニ常ニ風ヲ吹キ通ス地ヲ以テ適當ナリトス

一 製氷場ハ殊ニ池ヲ堀リ以テ新設スルヲ第一良シトス然レトモ水質善良ニシテ汚穢物含有セル憂ナキニ於テハ山間等ニアル在來ノ池ヲ用ユルモ可ナリトス又木板ヲ以テ箱ヲ製シ製氷用ニ供スルモ亦可ナルモノナリ

一 製氷場ノ構造方ハ氷池ノ内面悉皆敷石煉瓦或ハ木板ヲ以テ圍ヘ又ニセメント叩ニスルヲ第一トス然レトモ地質ニヨリ汚泥ノ池水ニ混入スルヲ憂ナキ地ニアリテハ池底面ニ小砂利等ヲ敷クカ如キ便宜ノ方法ヲ設クルモ妨ケナカルヘシ

一 在來ノ池ヲ以テ製氷場ニ充ントセシニハ毎年八九月ノ頃ニ於テ池中ノ蕪穢汚泥ヲ浚渫シ夏中ノ腐敗水ヲ落シ更ニ清水ヲ引キ入レ又之ヲ落シ如此掃除スルコト再三充分池中ヲ清潔ナラシメ而シテ十一月下旬ニ至リ更ニ清水ヲ引入レ結氷セシムヘシ

一 氷池ニ水ヲ引入ルニハ樋管ヲ以テシ樋ノ上端口ニハ細目ナル濾網ヲ以テスルカ又ハ適宜ノ裝置ヲ設ケ塵芥ノ流入ヲ防クヘシ

一 氷池溜水ノ量ニ於ケル一定ノ度ヲ失セサル様注意スヘキモ亦緊要ナルコトナリトス若シ凍氷半ニ際シテ氷量俄ニ減少セルガ如キコトアルハ凍氷自

ラ其重量ニ堪エス下ニ低リテ破裂スルノ憂アルノミナラス水量ノ増減ハ大ニ凍氷ノ厚薄上ニ關係ヲ來スモノナリ故ニ水池ノ水量ニ増減ヲ來サシムルカ爲メ終始一定ノ少量水ヲ掛ケ流シ置クヘシカクスルトキハ又水池ニアル溜水ノ腐敗ヲ防クノ便アルモノナリ

一水池ニアル水量ノ多寡池底ノ淺深ハ凍氷ノ厚薄上ニ關係アルヲ以テ寒暖ノ強弱ニヨリ度ヲ計リテ溜水ノ分量ヲ定ムルモ亦製氷者ニ於テ最モ必要ナル務トス如何トナレハ寒氣ノ弱キ地ニアリテ多量ノ水ヲ水池ニ引置クトキハ水温冷却スルノ力弱ク隨テ凍氷スルノ薄キヲ見ルナリ而シテ寒氣ノ強キ地ニアリテ又少量ノ水ヲ溜メ置クトキハ水池中一滴ノ水ヲモ洩サス悉皆結氷スルヲ以テ伐氷ノ際困難スルノミナラス到底善長ノ凍氷ヲ得ル能ハサルナリ故ニ假令ハ凡一寸乃至二三寸凍氷セシムル地ニアリテハ溜水ノ量一尺乃至二尺ヲ度トシ四寸乃至五六寸凍氷スルノ地ニ於テハ溜水ノ量二尺乃至三四尺ヲ限リトセハ可ナルモノナリ

一烈風ノ爲メ土砂塵芥等ヲ水池中ヘ吹キ入ルコトアリ然ルニ水池ノ溜水未ダ結氷セサルトキハ其水ヲ落シ新ニ清水ヲ引入レ又已ニ結氷セサルニ於テハ其凍氷ヲ排除スルヲ要ス假令細微ノ土砂塵芥ト雖トモ一段凍氷中ニ混入スルニ於テハ試驗上成績ノ不良ナルハ勿論夏期飲料ニ際シ「コップ」ノ

中ニ沈澱シ顯ハル、モノナリ故ニ水池ノ近傍ニハ土砂塵芥等ノ障害ナキ地ヲ撰定スルモ亦緊要ノコトナリ

一池水已ニ凍リテ未ダ伐氷ノ期ニ至ラサル内降雪アリテ氷上ニ堆積スルトキハ努メテ此ヲ拂ヒ除ケサルヘガラズ然レトモ凍氷未ダ二寸以下ノ時ニ當リ俄然暖氣トナルノミナラス時トシテハ雨雪ノ交降シテ氷上ニ堆積スルトキハ薄氷ニ重荷ヲ負ヘ遂ニ凍氷沈ミ墮テ氷上ニ水ヲ受ケ又寒氣トナリ氷上溜ノ雪一時ニ變シテ結氷スルコトアリ此即チ塵芥交リノ雪氷ニシテ販賣許可ヲ得サルハ多ク此等ノ分ナリ故ニ廢棄スルノ外ナキナリ

第二 伐氷法

一伐氷ノ期節ハ小寒大寒ノ交ニ於テ極寒ノ日ヲ長トスト雖トモ氣節ノ變動ヲ推察シ伐氷ノ期ヲ誤ラサルヲ必要ナリトス如何トナレハ已ニ適度ノ凍氷ヲ得ルモ伐氷ノ時期ヲ誤リ遷延スル内俄然南風温暖ノ氣ヲ催スカ或ハ降雨ニ遇ヒ已ニ結氷シタルモノ假令全氷融解セズト雖トモ表面幾分ノ融解スルキハ氷ノ厚サ當ニ減少スルノミナラス亦俄ニ寒氣トナリ表面一旦融解セル氷水再ヒ凍リテ氷トナルコトアリ此亦粗鬆不透明塵芥混リハ凍氷ニシテ不良品ノ一ナリトス

一凍氷ヲ伐採スルノ法ハ先ツ伐氷セントスル尺寸ニ從ヒ隨意縱横ニ定規板

ヲ以テ氷面へ伐採スヘキ筋ヲ劃シ然ル後大鋸ヲ以テ挽切ルヘシ然レトモ便宜一方便ヨリ氷一枚ッ伐リ離スヘキモノコレヲ若シ數枚ヲ連子或ハ氷池ノ四隅ヲ先ニ伐リ離ストキハ伐氷上甚々困難ヲ來スアリナラス亦收穫上損失ヲ招クモノナリ已ニ伐リ離シ枚々箇々池水中ニ浮游セル氷ヲ竹竿端等ニ鉤ヲ付シ之レヲ以テ引集メ或ハ氷缺ト稱スルモノヲ造リ之レヲ以テ引キ揚クルハ便ナリトス

一凍氷ヲ伐採スルノ尺寸ハ一定ノ法ニアラスルト雖トモ長サ三尺横一尺五寸ト爲スハ運搬便利ニシテ兼テ又タ見分上宜シキモノナリ

一伐採セシ凍氷ハ假リニ日除ケ小屋ヲ設ケ之ニ積置キ一夜以上暴露スルヲ以テ却テ氷質ヲ堅緻透明ニスルモノナリ然レトモ太陽ノ光線ヲ避クヘシ若シ日光ヲ受クルトキハ氷質透明ヲ失シ脆粗不良ノ氷ト變スルモノナリ

一伐氷後氷室ヘ運搬ノ際土砂塵芥等ノ附着セサル様注意スヘシト雖モ亦誤テ少數土砂ノ点付スルコトアルハ敢テ憂フルニ足ラサルナリ然レトモ藏積ニ際シテハ充分注意ヲ加ヘ土砂ノ附着シアル部分ハ能ク削リ取ルヘシ

第三 貯藏法

一氷室ノ構造法ハ至要ノコトニテ氷室構造ノ完備スルト否トハ貯氷減否ノ度ニ大ナル關係アルモノナリ故ニ貯氷者ニ於テハ氷室ノ構造ニ最モ注意

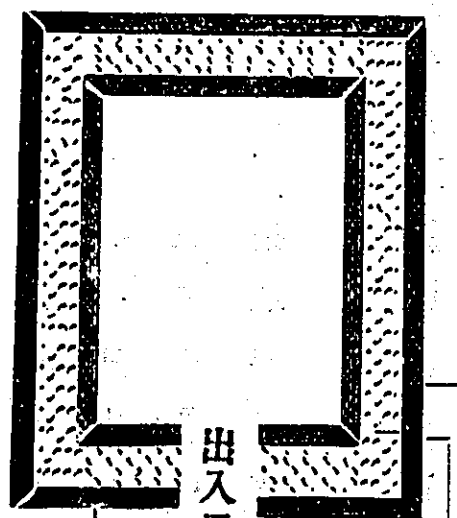
スヘキモノトス先ツ氷室構造方ノ概略ヲ示サシ外圍ハ尋常日本造リノ土藏トナシ其内側面ヨリ四邊凡三尺ヲ隔テ二重室ヲ築造スルニ煉瓦又ハ木板ヲ以テ構造スルヲ長トス此二重室ノ外側面ト外圍土藏ノ内側面トノ三尺ノ空間ニハ四圍トモニ大鋸屑ヲ以テ充塞シ而シテ氷室中土間ノ部分ハ「セメント」叩ノ流シ形ニスルカ或ハ木板ヲ以テ構造スルカ又ハ氷室ヲ建設スルニ當リ砂地ヲ撰ミテ設置スルカ何レノ方法ニヨルモ適宜ノ勾配ヲ付シ貯氷融解水ノ室中ニ溜溜スルノ憂ヲ防クヘシ若シ氷室中ニ水ノ溜溜スルコトアレハ貯氷ヲ損害スルモノナリ故ニ數椽ヲ設クヲ長トス次ニ天井ノ構造ノ氷室ノ大小ニヨルト雖モ中間ニ一二ヶ所ノ口ヲ設ケ水蒸氣ノ蒸騰發散スルノ便ヲ設クルヲ長トス其外天井上ニ大鋸屑五寸以上敷キ置クニ堪ユヘキ堅固ノ構造ニヨルヘシ而シテ出入口ハ上下二ヶ所ニ設クルヲ最モ便ナリトス

一前項ノ外氷室ヲ三重造リトナスモ亦良シトス其方法ハ外一重ノ口造ハ日除ケトナスニ足ルヘキ構造ニシ即チ尋常家屋造ニシ内第二重造モ亦煉瓦ヲ以テスルカ或ハ尋常家屋造トシ内第三重造ニ至リテハ木板ヲ以テ構造スルモ可ナリトス而シテ第二第三重室ノ中間ニハ大鋸屑ヲ充塞スルモノナリ

一又土窟ヲ以テ氷室トナスモ亦前項ニ準シ土窟中ニ二重ニ木板ヲ以テ圍フ
 カ又ハ石ヲ疊ミ築造スルカ何レニヨルモ土崩ヲ防クニ堪ユヘキ構造ヲ設
 シヘシ

一氷室構造ノ畧圖ヲ左ニ示ス

圖一第

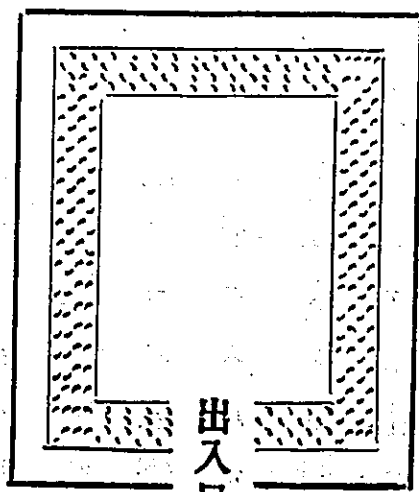


土藏造
 三尺ノ間鋸屑ニ充塞スルナリ又炭
 紛ヲ用コルモ良トス

出入口巾三四尺以内トシ二重トモ落シ板ヲ用
 ユルヲ便ナリトス

煉瓦又ハ木板

圖二第



出入口第一圖ニ全シ

第一第二重ハ尋常家屋造リ内第三重ハ木
 板ヲ以テ構造スルモ可ナリ第二第三重ノ
 間ニハ鋸屑ヲ充塞スルナリ

一凍氷貯藏ノ法ハ平面積トナスヨリ横面積トナスノチ良トス平面積トセハ
 暖暑ノ候ニ至リ漸々貯氷自然ニ融解シ其融解水積氷間ニ溜溜スルノ憂ア

リ且ツ水ノ溜溜ハ融解力ヲ増進スルノ勢アリ故ニ横面積トセ此ノ憂ヲ
 防クノ便アルモノナリ此レ必竟氷ノ性質タルヤ霜柱狀ニ結氷スルモノナ
 レハナリ

一貯氷ハ大鋸屑ヲ以テ圍繞充塞シ空氣ノ侵入ヲ防クヲ要ス故ニ積氷接合ノ
 空間ニハ大鋸屑ヲ充塞シ空氣ノ流通ヲ防塞スヘシ然レトモ又氷屑ヲ細粉
 ニ碎キ此ニ代用充塞スルモ却テ益アリトス
 一氷ト氷ノ間ニ一々鋸屑ヲ敷キ圍繞スルニ及ハスト雖モ積氷重疊ノ間ハ一
 層毎ニ鋸屑ヲ數クヲ便利トス積氷間ニ鋸屑ヲ用ヘス氷屑ヲ以テ其間隙ヲ
 充塞セルトキハ自然ト凝固シ氷室中一氷塊トナリ藏出ニ際シ困難ヲ來ス
 ノ憂アリト云フ

一時氷後五六月ノ候ニ至リ時々氷室ヲ巡視シ積氷中空隙ヲ生スル所アレハ
 勉メテ大鋸屑ヲ以テ充塞密閉シ外氣ノ積氷間ニ侵入スルヲ防クヘシ

第四 雜法

一貯氷ノ融解減少スル比例ハ大略始メ壹萬斤貯氷セルモノハ暑中販賣即チ
 賣上高ニ至リテハ五六千斤ニ過キサルモノナリ其甚ダシキニ至リテハ三
 四千斤ニ止マルモノアリ如斯貯氷減少ノ差異アル所以ゾモノハ氷室構造
 ノ完否及貯氷ノ際不注意ニ關係スヘシト雖トモ亦暑中藏出ニ際シ一氷室

ニ於ル一週日前後ヲ以テ賣却スルモノト二週或ハ三週以上ニ亘リ屢々氷室ヲ開閉シ賣捌キヲ爲スニ依ル此必竟外氣侵入ノ爲メ大ニ融解力ヲ増進シ減少ヲ來スニヨルモノナリ

一氷池及氷室ヲ設置スルハ衛生上及凍氷ノ如何ニ注意スヘキハ勿論ナリト雖モ又營業者ニ於テハ運搬及販路ノ點ニ注意シ其始ニ於テ計算ヲ立テサル可ラズ如何トナレハ假令善良ノ凍氷ヲ得ルト雖モ通路峻峻等ノ爲メ運搬上意外ノ失費ヲ來シ販賣上収支相償ハサルコトアレハナリ

一氷ノ斤數ヲ推測計算スルノ法ハ六尺立方ヲ五噸トス(一噸ハ凡我二百七十ニ貫目)而シテ又長サ二尺横一尺五寸ノモノハ厚サ五分ヲ以テ一貫目ト計算スルモノナリ

縣令甲第九十一號

本年(十月)縣令甲第八十八號凍氷營業取締規則凍氷製造貯藏出願期限ハ前年期十一月十五日限リノ處有ハ本年ニ限リ來ル十二月三十一日ヲ延期ス

明治廿一年十一月十日

福島縣知事山田信道代理

福島縣書記官 永峯彌吉

告示第三百四十六號

今般內務省衛生局附属牛痘種繼所ノ事業ヲ大日本私立衛生會ニ委附セラレ

候ニ付該會ニ於テ從前ノ通新鮮有効ノ苗痘ヲ採漿シ普ク需用ニ應スヘシ旨其筋ヨリ通知ノ次第モ有之候條右需用者ハ該會ニ購求方申出ツヘシ

明治廿一年十一月三十日

福島縣知事山田信道代理
福島縣書記官 永峯彌吉

第二章 衛諸表

第一項 面積町村數及戶口表

面積町村數及戶口數

郡	名	面	積	町	數	村	數	戶	數	人		計
										男	女	
河	沼	二五八	一	九〇	六四八六	一九八五九	一九三八四	三九、二四三				
耶	麻	七八五七	二	一〇四	九九五六	三、九六一	三、三〇七	六三、二六八				
北	津	二〇、九八	八	六六	九、一三	二四、七七九	二四、五三六	四九、三二五				
南	津	一四〇八一	三	九	四四三六	一三、七七八	一二、七五八	二六、四七六				
岩	瀨	三、一一	一	五	六七、一五	一八、三八〇	二八、六五八	三七、〇三八				
安	積	二八、四五	一	四六	七、三二	二〇、五三〇	一九、九五八	四〇、四七八				
安	達	四、一四	一	六一	二、九二二	三九、三〇〇	三八、一四八	七七、四四八				
伊	達	四三、五八	一	九二	一六、六二	五〇、九七八	五〇、三〇八	一〇一、二八六				
信	夫	二五八	一	七〇	二、五四八	三七、二五九	三六、〇三四	七三、二九三				

死亡者年齡別

比 較	前 年 員 數	合 計	幣 櫓 櫓 櫓 櫓 櫓					
			字 行 標 櫓 櫓 櫓					
			多	方	葉	葉	城	前
減	增		〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃
五三二	：	一五九四	三九	一八	二	五四	三三	三三
：	：	二六八四	二五	六七	五八	三〇	二五	一〇五
：	：	二二四	三	二	一	七	二	五
：	七	二九	二	一	一	三	二	二
：	三〇	四〇八	一五	六	九	六	二	五
二五七	：	三八三三	一〇	七	六	一	八	〇
二七〇	：	二七六八	六	三	三	八	四	二
二八八	：	二七六八	一〇	四	五	六	三	三
：	七	五六〇	三	一	八	二	一	九
：	二七	三九〇	一	四	九	一	二	七
：	五	二	：	：	：	：	：	：
：	五	四九	：	：	：	：	：	：
八四	：	一六六四八	五	八	一	七	七	七
：	一八四	七三	六	三	三	一	〇	六
：	二〇八一	九二七七九四	二	八	八	三	二	六
：	四〇二	五八〇四	五	四	二	六	〇	三

耶 河 大 東 西 石 田 菊										郡 名	
白 白										別	女 男
多	村	川	河	川	沼	沼	麻	計	女 男		
〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	計 女 男	性	傳
四五	一五	三〇	七四	三三	四一	三二	六五	四六	三三	第一類	第一類
一〇	五	四七	二四	二二	三三	九	四	四	八	第二類	第二類
三	：	：	：	：	：	：	：	：	：	第三類	第三類
二	一	〇	七	三	：	：	：	：	：	第四類	第四類
五	一	四	三	六	三	三	一	二	五	第五類	第五類
九	七	三	九	五	一	六	六	一	七	第六類	第六類
七	八	〇	二	一	九	五	六	一	七	第七類	第七類
八	四	四	二	一	九	五	六	一	七	第八類	第八類
一	三	一	六	四	三	九	五	四	三	第九類	第九類
九	三	六	三	二	二	四	三	一	七	第十類	第十類
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	第十一類	第十一類
一	：	：	：	：	：	：	：	：	：	第十二類	第十二類
四	二	三	一〇	五	六	七	八	〇	八	合 計	
三	〇	一	四	七	〇	〇	一	六	二	病 人 口	
三	四	六	七	二	三	九	二	六	八	口 對	